

熊本SJCD例会抄録

演題：前歯部審美修復における補綴処置の選択基準

演者名：小坪義博

日付：2016年8月23日

Key word

- 1；インプラントorブリッジor義歯
- 2；オールセラミック
- 3；オベイト

『抄録』

欠損補綴の選択には、大きく分けて3つの選択肢が考えられる。固定式を希望するのであれば、ブリッジかインプラントになる。また、ある程度からの年齢であれば、義歯を選択した方が患者にとって、経済的、身体的負担も少なくてすむ場合がある。1～4歯程度の欠損であれば、患者は固定性の修復を望む事が多いであろう。現在の潮流からいけば、欠損補綴の方法としてインプラントを用いた補綴修復を、最初に患者に提示する傾向が見られる。

但し、インプラント補綴治療は、誰でもが選択出来るわけではなくて、経済的な問題、全身および局所状態によりインプラント補綴よりも、他の補綴治療の方が適切な場合もある。

特に、前歯部欠損においては審美性が重要視され、患者も自然で快適な修復処置を希望することが多い。昨今は、インターネットを始めとする情報ツールの発達により、患者自身も様々な情報を手に入れることが可能になって来た。

女性の患者では、非常にハイレベルな結果を求める傾向にある事も事実である。

今回、28歳の女性の前歯欠損補綴のケースで、適切な補綴処置の選択について検証する。